

# 糸島市離島振興計画

福岡県 糸島市

平成25年4月

# 目次

## 第1章 総論

第1節 計画策定の趣旨	1ページ
第2節 計画の期間	1ページ

## 第2章 姫島の振興に向けて

第1節 姫島の概況	2ページ
1 位置・地勢	2ページ
2 歴史	2ページ
3 人口・世帯	3ページ
第2節 振興の基本方針	4ページ
第3節 各分野における現状・課題および施策の方向性	4ページ
1 本土と離島および離島と離島並びに離島内の交通通信の確保	4ページ
（1）海上交通	4ページ
（2）島内交通	5ページ
（3）本土交通	5ページ
（4）情報通信環境	6ページ
（5）流通	6ページ
2 農林水産業、商工業等の産業の振興および資源開発の促進	6ページ
（1）水産業	6ページ
（2）新たな産業	7ページ
3 雇用機会の拡充、職業能力の開発その他の就業の促進	8ページ
4 生活環境の整備	8ページ
（1）上水道	8ページ
（2）下水道	8ページ
（3）ごみ処理	9ページ
5 医療の確保等	9ページ
（1）医療	9ページ
（2）救急医療	10ページ
（3）妊婦の健診および出産	10ページ
6 介護サービスの確保等	11ページ
7 高齢者の福祉その他の福祉の増進	11ページ
（1）高齢者福祉	11ページ
（2）児童福祉	12ページ
（3）総合福祉施設	12ページ
8 教育および文化の振興	13ページ
（1）学校教育	13ページ
（2）生涯学習	14ページ
（3）文化	14ページ
9 観光の開発	15ページ
10 国内および国外の地域との交流の促進	15ページ
（1）島内交流	15ページ
（2）島外交流	16ページ
11 自然環境の保全および再生	16ページ
12 再生可能エネルギーの利用その他のエネルギー対策	17ページ
13 水害、風害、地震災害、原子力災害その他の災害を防除するために 必要な国土保全施設等の整備その他の防災対策	17ページ
14 離島の振興に寄与する人材の確保および育成	18ページ

# 第1章 総論

## 第1節 計画策定の趣旨

本市が有する唯一の離島「姫島」は、福岡県の北西側、佐賀県境の洋上に位置する島で、本土岐志漁港から市営渡船で約16分（片道7km）と比較的近い位置にあります。

本土の近くに位置し、交流は頻繁になされているものの、周囲を海で囲まれ、本土と隔絶されているという離島特有の条件から、生活環境、医療・福祉、産業、教育などの面で、依然として本土との格差があります。

本市では、昭和28年に離島振興法が制定されて以来、各種の離島振興施策を展開し、漁港、道路や上下水道、学校などのインフラ整備を実施し、生活環境の改善などに一定の成果を挙げてきました。しかし、近年、人口の減少や少子高齢化の急速な進展、地震・津波などの自然災害に代表されるような、新たな課題が発生しており、これらを含め、継続的な対策が求められています。

一方で、離島の担う国家的・国民的な役割が注目されており、平成24年6月には、国において、限時法である離島振興法の改正・延長がなされ、改めて離島振興のための施策の必要性が確認されました。

本計画は、改正後の離島振興法に基づいて、姫島における自立的発展、生活の安定、福祉の向上や交流の促進などを目指し、姫島における現状・課題を踏まえ、今後の振興策のあり方や市の施策について示すものです。

なお、本計画は、本市における離島「姫島」の振興について、今後の振興策などを示すもので、離島振興法に基づいて福岡県が策定する離島振興計画の基礎となるものです。今後は、国や県においても、これらの離島振興計画に基づいて、支援策などが重点的に展開されることとなります。

## 第2節 計画の期間

本計画の期間は、平成25年度（2013年度）から平成34年度（2022年度）までとします。ただし、必要に応じて内容の見直しを行います。

## 第2章 姫島の振興に向けて

### 第1節 姫島の概況

#### 1 位置・地勢

姫島は、福岡県の北西側、佐賀県境の洋上に位置し、本土岐志漁港から市営渡船で片道約16分(7km)、面積0.75km<sup>2</sup>、周囲3.8km、円錐型の比較的小さな外海本土近接型の島です。

島の南側の一部にのみ集落が集中しており、島の中央にそびえる「鎮山」(標高187m)を中心として、大部分に手付かずの自然が残っています。



姫島のすがた(中央が鎮山)



姫島位置図

#### 2 歴史

明治31年(1905年)井戸掘りの途中に、石器時代のものと見られる磨製石斧が出土しました。島では、古くから人々が生活し、主として農業が営まれていたことが推察できますが、時代が進み、航海などの技術が発達すると、五島や壱岐付近まで捕鯨に出かけるようにもなりました。

また、鎮山の頂上には、遠見の番所跡があり、海賊の来襲に備えていたと見られています。

慶応元年(1865年)11月、福岡藩で起こった勤皇派弾圧事件「乙丑の獄(いっぢゅうのごく)」において、女流歌人の「野村望東尼(のむらもとに)」が、勤皇派の志士たちをかかった罪などに問われ、姫島への流罪を命じられました。

望東尼は、高杉晋作の命で救出されるまでの10カ月間を島内の牢居で過ごし、島の人たちとの交流や幽閉中の生活を「ひめしまにき」「夢かぞへ」などに記しています。

望東尼の死後、伊藤博文、山縣有朋、毛利元昭らの寄附によって、記念碑が建立されました。現在では、再現された御堂の横に歌碑や遺品が展示されており、毎年5月の第3土曜日は、望東尼の遺徳を偲んで、望東祭が行われています。

### 3 人口・世帯

国勢調査によると、島の人口は、平成 17 年頃から急激に減少が進んでおり、平成 22 年と昭和 60 年を比較すると、約 25% (53 人) が減少しました。

一方で、世帯数には大きな減少が見られず、1 世帯あたりの人数が減少していることを示しています。

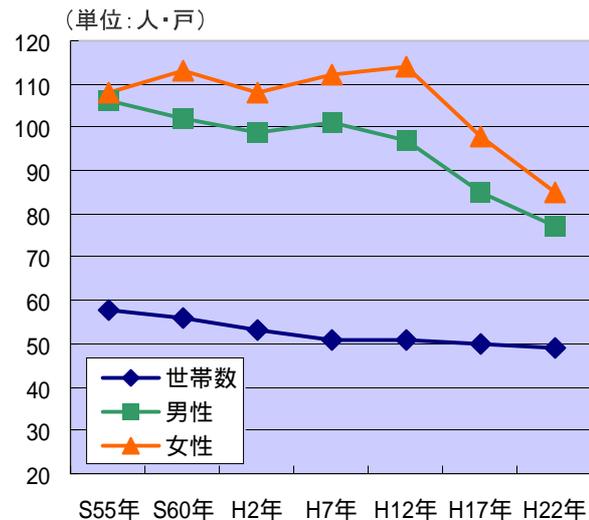
また、平成 22 年度国勢調査における年齢別の人口分布を見ると、老年人口割合 (65 歳以上の割合) が 26.5%と、福岡県の平均数値を 4.2% 上回っており、高齢化が進んでいるといえます。

年少人口 (15 歳未満) については、14.8%と県平均をわずかに上回っていますが、生産年齢人口 (16 歳以上 65 歳未満) の割合は、県の平均数値に比べて 5.5%少ない 58.6% になっています。

島では、中学もしくは高校を卒業した時点で島外に住まいを移し、そのまま本土で生活するケースが増えてきており、今後、生産年齢人口減少の加速が懸念されます。

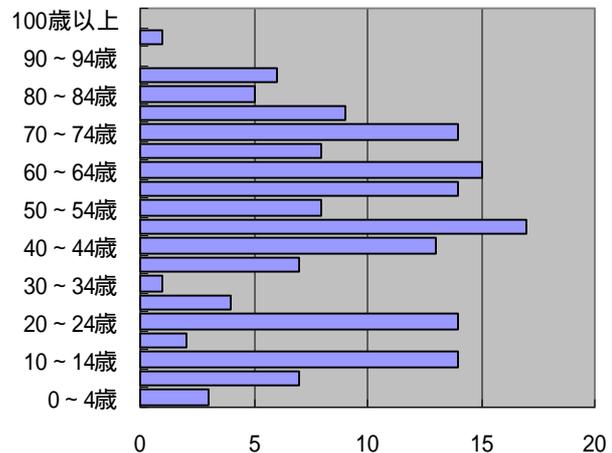
【姫島の人口の推移】 国勢調査より

年	世帯 (戸)	人口(人)		
		男性	女性	合計
昭和 55 年	58	106	108	214
昭和 60 年	56	102	113	215
平成 2 年	53	99	108	207
平成 7 年	51	101	112	213
平成 12 年	51	97	114	211
平成 17 年	50	85	98	183
平成 22 年	49	77	85	162



【姫島の年齢別人口分布】 H22 国勢調査より

年齢	男	女	合計
15 歳未満	10	14	24
15 ~ 64 歳	51	44	95
65 歳以上	16	27	43
75 歳以上	7	14	21
85 歳以上	3	4	7
平均年齢	46.18	49.77	48.06
総数	77	85	162



## 第2節 振興の基本方針

姫島は、本土から非常に近く、昔から日常的に本土との交流が行われてきた身近な離島であるとともに、自然豊かな環境や人情味厚い風土が残るあたたかな島です。

こうした島の特性を生かしつつ、近年押し寄せる人口減少・少子高齢化の波に負けない「強い島づくり」を進めるため、各分野において次に掲げる施策を展開します。

## 第3節 各分野における現状・課題および施策の方向性

### 1 本土と離島および離島と離島並びに離島内の交通通信の確保

#### (1) 海上交通

##### 現状・課題

現在、島と本土をつなぐ唯一の海上交通として、定員90人の市営渡船「ひめしま」が姫島-岐志間を1日4便運航しており、市道の延長ともいべき生活航路となっています。島外への通勤、買い物、通院、島内小中学校への教職員の通勤、釣りなどの観光が主な利用目的ですが、1便当たりの乗船者数は定員の3割弱で、海況の悪化で欠航となることもあるため、安定した収入や増収は見込めないのが現状です。

渡船事業は、運賃収入による経営では赤字であるため、国・県の補助金や市の一般財源に依存しており、非常に厳しい経営を余儀なくされています。運航時間の改善や増便を望む声もありますが、増便は運航費用が増大するため現状では困難であると言わざるを得ません。

また、老朽化が進む市営渡船は、修繕費用が増加傾向にあるため代替建造が必要で、経営基盤の強化とあわせて課題となっています。

##### 施策の方向

##### 利用者増の取り組みと利便性の向上

団体利用の誘致など利用促進を図ります。また、運航時間の改善を行い、利用者の利便性の向上に努めます。

##### 渡船事業の経営基盤の強化

経営診断と航路診断を行うことにより、経営基盤の強化と効率的で安定した渡船事業を目指します。

##### 市営渡船「ひめしま」の代替建造

市営渡船「ひめしま」の代替建造により運航経費の縮減を行うとともに、安全で安定した航路を目指します。

## (2) 島内交通

### 現状・課題

姫島は、集落や公共施設が島南側の比較的狭い範囲に集積されており、さらに集落内道路の幅員が狭いため、火災時の消火活動や災害時の避難ルートの確保が難しい状況です。

また、島周回道路が未整備であり、陸路で島の北側に行くことができないため、島の環境保全活動や磯漁場の監視活動などをじゅうぶんに行うことができない状況です。

なお、島内には、現在 11 路線（約 1,900m）の市道があり、舗装率は 95%ですが、幅員、曲線半径、勾配その他の道路状況により「自動車交通不能延長」とされる道路が 700mあります。

災害防止や島民の安全確保などの面から、集落内道路の拡幅や島周回道路の整備などが課題となっています。

### 施策の方向

#### 集落内道路の拡幅

火災の類焼防止や災害時の避難ルートの確保など、安全で安心な住環境を確保するため、集落内道路の拡幅を検討します。

#### 島周回道路の整備

国土保全、災害防止および新たな観光資源を生み出す役割が期待できる、島周回道路の整備を検討します。

## (3) 本土交通

### 現状・課題

本土側における交通アクセスは、自家用車で訪れる市営渡船利用客に対応するため、本土岐志漁港施設に約 100 台が無料で駐車できるスペースを確保し、また、姫島から本土に行く市営渡船利用客に対応するため、市営渡船の運行時間を路線バスの運行時間に合わせています。平成 22 年 4 月には、市営渡船の岐志発着地のそばに姫島への観光客が利用できる「岐志観光休憩所」を建築しました。

今後は、赤字であるバス路線の維持、姫島への観光客誘致、舗装駐車場の整備や岐志発着地への道路整備が課題となっています。

### 施策の方向

#### 本土赤字バス路線の維持存続

本市志摩地域は、路線バス以外の公共交通機関がないため、市営渡船と鉄道とを結ぶバス路線の維持存続に努めます。

#### 本土駐車場の整備

駐車場は漁港整備用地で、現在無料であることから、渡船利用者以外の車両が駐車されていることがあります。また、定期的な除草も必要であることから、駐車場管理の効率化を図るため、駐車場の整備と一定時間以上の利用者への有料化（コインパーキング化）を検討します。

### （４）情報通信環境

#### 現状・課題

現在、一般家庭で利用できる主なインターネットの通信環境は、ISDNによるダイヤルアップ接続です。また、学校施設で利用している衛星通信による接続も、通信速度が遅く、最大で2 Mbps（公称値）しか出ず、校務での使用や児童生徒の調べ学習に支障が出ている状況です。

そのため、本土と比較して離島住民の生活利便性に大きな格差が生じていることから、高速通信環境の整備が課題となっています。

#### 施策の方向

産業、観光および生活情報などの収集や発信を効率的に行うため、光ファイバーなど最適な高速通信環境の整備を通信事業者などとの適切な連携・役割分担のもとに進めます。

### （５）流通

#### 現状・課題

漁獲物を鮮魚運搬船で出荷していますが、燃油の高騰により本土に比べ漁業経費が高くなっています。

また、新たな取り組みとして魚類の短期蓄養を実施しており、活魚や鮮魚の保存・運搬施設や製氷・冷凍技術の改善が課題となっています。

#### 施策の方向

魚介類のブランド化や活魚出荷体制の確立とあわせ、流通経費の削減を支援します。

## 2 農林水産業、商工業等の産業の振興および資源開発の促進

### （１）水産業

#### 現状・課題

姫島 50 世帯のほとんどが刺網や釣り、定置網、吾智網および採貝藻漁業に従事

していますが、近年、漁場環境の悪化、漁獲の減少、魚価の低迷、燃油の高騰により漁業収入が減少し、漁家経営は厳しい状況にあります。

今後は、安定した漁獲収入と安全な漁獲物を供給するための施策と安心して暮らせる基盤整備や漁業後継者育成のための施策の充実が課題となっています。

#### 施策の方向

##### 栽培漁業の推進

水揚量および漁家収入の安定を図るため、種苗（稚魚・稚貝）放流事業や魚礁設置事業を推進します。

##### 漁場環境の整備、資源管理型漁業の推進

有害生物の駆除と藻場造成を図り、時期や量、区域を設定して計画的な水揚げを行うことにより、水産資源の枯渇防止に努めます。

##### 漁港施設の整備

漁港および周辺施設を検証し、漁港機能保全計画により逐次整備を図っていきます。

##### 後継者施策の充実

定住を促進するため、後継者やUターン希望者に対する住宅整備などの施策の充実に努めます。

## （２）新たな産業

#### 現状・課題

漁業では水産加工所を整備し、不定期に加工製品を製造していますが、年間を通して製造できる施設の整備が必要です。また、インターネットを活用した漁獲物販売、島内で魚介類や島独自のブランド品などを提供するおもてなしの施設、その他、情報産業などで働く場の確保が求められています。

#### 施策の方向

##### 年間稼働する水産加工施設などの整備支援

加工材料の確保、保管施設の整備、水産加工に関する技術、販売ルートの確立などを支援します。

##### おもてなしの場の整備支援

島内で魚介類を提供・販売する場の整備を支援します。

##### インターネットを活用した産業の導入（発掘）支援

インターネットを活用した情報発信および特産物の販売体制の確立を支援するとともに、インターネットを活用した産業の掘り起こしを推進します。

### 3 雇用機会の拡充、職業能力の開発その他の就業の促進

#### 現状・課題

姫島は漁家比率が高く、漁業に特化した産業構造です。島外通勤者も少なく、島内における漁業以外の就業機会としては、漁協職員や市の職員（定期船職員など）、民宿、小売業、保育所職員、介護ヘルパー、学校事務があるのみで、漁業以外の就業機会は少ない状況です。特に、若い女性の働く場所が無く、高校を卒業すると、本土で働く人がほとんどです。

姫島の産業特性にあった就業の場、特に女性の就業の場の創出が課題となっています。

#### 施策の方向

施設整備や新たな産業の創出推進などを進め、働く場所の確保を支援します。

### 4 生活環境の整備

#### (1) 上水道

##### 現状・課題

姫島水源場及び浄水場は、平成2年度志摩町漁業集落環境整備（簡易水道）事業で整備し、姫島全世帯に水道水の給水を行っている重要な水道施設です。しかし、この水道施設も既に20年以上稼働しており、経年劣化による老朽化はもちろんのこと、潮風（塩害）による機械機器などの腐食も他施設に比べて激しい状況にあるため、早急に施設を更新する必要があります。

##### 施策の方向

平成25年度に基本計画、詳細設計および簡易水道事業認可変更を行い、平成26年度には姫島水道施設更新工事を計画しており、安全な水道水の安定供給に努めます。

#### (2) 下水道

##### 現状・課題

下水道施設は、志摩町漁業集落環境整備（集落排水）事業により、平成4年4月に供用を開始し、姫島全世帯が接続しています。

なお、供用開始から20年経過し老朽化している施設は、平成23年度～平成24年度に施設を更新しています。

今後は、施設の長寿命化が課題となっています。

#### 施策の方向

施設の長寿命化を行うことによって、島民生活の向上と公共用水域の水質保全に努めます。

### (3) ごみ処理

#### 現状・課題

ごみ処理については、ステーション方式の有料袋制を採用しており、もえるごみ（月2回）と、資源物およびその他のもえないごみ（月1回）は市営渡船で、粗大ごみ（年1回）は漁協青壮年部がボランティアで本土まで搬出しています。

また、漂着ごみや釣客等の散乱ごみについては、地域のボランティアの清掃活動によって回収されています。

今後は、本土までのごみ搬出に係る負担軽減や散乱ごみなどの対策が課題となっています。

#### 施策の方向

##### 生ごみの処理

生ごみ処理機の設置等により、生ごみ処理負担の軽減を図ります。

##### 散乱ごみ対策等

ダイオキシン対応小型焼却炉の設置等により、ごみ処理負担の軽減を図るとともに、釣り客などによる散乱ごみ対策を支援します。

## 5 医療の確保等

### (1) 医療

#### 現状・課題

民間の内科診療所として、平成22年6月に「ひめしまクリニック」が開設され、月2回、土曜日の午後1時から4時までの間、診察が行われています。

島内でも診察を受けることができるようになりましたが、現在、10人程度の患者は、高度医療が必要であり、従来どおり市営渡船と路線バスを乗り継いで本土の医療機関に通院しています。

健康診査については、年1回、島を訪問して実施していますが、本土で実施している総合健診を受診している人もいます。

#### 施策の方向

民間の内科診療所における診察日数（月2日）が増加するよう働きかけを行います。

健康診査は現状を維持し、実施時期を多くの住民が受診しやすい時期にするなど見直しを検討します。

併せて、内科診療所での特定健診の受診を勧めていきます。

## (2) 救急医療

### 現状・課題

救急医療体制については、糸島漁業協同組合姫島支所との救急患者搬送船体制と、悪天候で救急患者搬送船が出港できない場合の福岡県消防相互応援協定および福岡県の救急医療システム（ドクターヘリ事業）によるヘリコプターの出動体制をとっています。

今後は、ヘリコプターが出動できないような悪天候の場合の対応などが課題となっています。

また、島内で誰もが応急処置が出来るような体制づくりを進めていきます。

### 施策の方向

#### 救急医療体制と連携の強化

島、行政、消防および医療機関との連絡体制を確立し、救急医療体制の強化、充実を図ります。

#### 応急手当講習会等の実施

島の誰もが応急手当、救命処置ができるよう、島民を対象とした講習会を繰り返し実施します。

## (3) 妊婦の健診および出産

### 現状・課題

島では、毎年2人程度の妊婦がいますが、島内に妊婦の健康診査又は出産に係る保健医療サービスを提供する病院、診療所等がないため、妊婦は、市営渡船と路線バスを乗り継いで本土の産婦人科医院等に通院または入院しています。

### 施策の方向

妊婦の健康管理と安全な出産を図るため、妊婦の通院または入院に対する支援を検討します。

妊婦の緊急時に備え、救急医療体制との連携強化を図ります。

## 6 介護サービスの確保等

### 現状・課題

介護サービスは、介護保険事業者が島内の姫島保健福祉館において、通所介護（デイサービス）を実施していますが、利用日数や時間帯の面で制約があります。

また、訪問介護（ホームヘルプサービス）については、島内に住むヘルパーにより実施しています。

高齢のため島内での生活が困難になり、施設入所を希望する場合は、島外の介護老人福祉施設等への入所申請をされています。

### 施策の方向

介護サービスについては、介護保険事業者と連携し、要介護（要支援）者のそれぞれの状態や希望に沿った介護サービスを提供できるよう、介護サービス事業の充実やヘルパーの確保などに努めます。

## 7 高齢者の福祉その他の福祉の増進

### (1) 高齢者福祉

#### 現状・課題

高齢者福祉サービスについては、姫島保健福祉館において、要介護者のための通所介護事業（デイサービス）および要介護対象外の人生きがいデイサービスを実施しています。その他、要介護対象外の人軽度生活援助事業（ホームヘルパー）についても、姫島在住のヘルパーの対応により実施しています。

拠点となる姫島保健福祉館は、昭和46年に建設した施設であり、また、託児所として利用している旧志摩中学校姫島分校舎も昭和28年に建設したものであるため、老朽化が進んでいます。利用者の安全確保および利便性の向上などを目的に、託児所および介護福祉等の拠点施設として介護福祉施設（仮称）を建設する予定です。

また、姫島においても認知症高齢者が増えているため、誰もが住み慣れた土地で安心した生活が送れるよう認知症高齢者とその家族への支援を行う必要があります。

#### 施策の方向

姫島介護福祉施設（仮称）における高齢者福祉サービス

志摩中学校姫島分校舎跡に姫島介護福祉施設（仮称）を建設し、関連事業者等と連携して下記の事業を実施することにより、高齢者福祉の充実に努めます。

- ・通所介護事業（デイサービス）
- ・生きがい健康づくりデイサービス事業
- ・高齢者と子どもの交流事業

#### 認知症高齢者に対する取組

認知症を正しく理解するため、認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座が開催されるよう働きかけます。

また、徘徊による行方不明の高齢者等が発生した場合を想定し、地域関係者に捜索のための支援体制の整備を求めます。

##### 「認知症キャラバンメイト」

自治体事務局等と協働して、地域や職域・学校などで認知症の正しい知識の普及・啓発を行うことにより、認知症サポーターの育成を担う人。

H24.11.23 現在、糸島市に 100 名登録。

##### 「認知症サポーター」

認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人やその家族に対して温かい目で見守る人。認知症の人の応援者。

#### その他の取組

- ・ 65 歳以上の高齢者等への姫島渡船料の半額助成

## (2) 児童福祉

### 現状・課題

保育所については、自治会が運営する無認可保育所（託児所）に、市が年間 160 万円の補助を行い運営されています。

平成 25 年度には、多目的施設として姫島介護福祉施設（仮称）が建設され、その中に姫島託児所が設置される予定です。

今後は、姫島託児所の安定運営が課題となります。

### 施策の方向

幼児教育と子育て支援のため、保育事業の充実強化を図ります。

なお、多目的施設として新設する姫島介護福祉施設（仮称）を無認可保育所（託児所）として活用します。

## (3) 総合福祉施設

### 現状・課題

昭和 46 年に建設した姫島保健福祉館と昭和 28 年建設の旧志摩中学校姫島分校舎（託児所として利用）は、ともに老朽化が進んでいます。

このような状況から、利用者の安全確保および利便性の向上などを目的に、地元との協議を重ね、姫島における保健・介護・高齢者福祉および託児所の機能を併せ持った姫島介護福祉施設（仮称）を平成 25 年度に建設することとしました。

#### 施策の方向

次のとおり、姫島介護福祉施設（仮称）の建設を進めます。

##### 構造

- ・鉄筋コンクリート造

##### 建設場所

- ・旧志摩中学校姫島分校舎（託児所）跡地

##### 完成時期

- ・平成 25 年 9 月完成（予定）
- ・平成 25 年 11 月竣工（予定）

なお、施設の整備後は、各サービス間で連携・調整を図るなど、より効率的で充実した事業の実施を推進します。

## 8 教育および文化の振興

### （1）学校教育

#### 現状・課題

平成 24 年度現在、姫島小学校は 7 人の複式学級、志摩中学校姫島分校は 6 人の単式学級となっており、少人数で学級運営ができるため、行き届いた教育ができる反面、競争意識や上昇志向の醸成が難しい状況にあります。

また、部活動の選択肢が少ないため、希望する部活動をするのができないのが現実です。

渡船の便数が限られているため、本土の学校でのプール授業や部活動等の時間に制約があることが課題となっています。

高校生は、島から通学できないため、ほとんどアパートを借りており、本土に比べ高校教育費の保護者負担が高くなっています。

#### 施策の方向

##### 通勤・通学のための交通手段の整備

島からの通学・通勤が可能となるよう、交通手段の確保について検討します。

##### 高校教育費保護者負担の軽減

本土のアパート等から通学する高校生の保護者負担の軽減について検討します。

## (2) 生涯学習

### 現状・課題

公民館主催講座では、高齢者教室や青年学級など、地域課題等に関する学習の講座を開催していますが、島の住民は学習意欲が高く、多くの人が参加されています。

今後は、地域の実情やニーズに応じた学習企画を提供することにより、学習意欲を高め、地域課題等に対する関心を持っていただき、今後の地域活動に繋がっていくことが課題となっています。

### 施策の方向

#### 高齢者教室の開催

高齢者の生きがいに繋がる講座を開催します。

#### 青年学級の開催

学習等を通じて、次世代を担うリーダーの育成を目指します。

#### まちづくり講座の開催

地域課題等に対する学習や講座を開催することにより、地域課題を再認識し、今後のまちづくりに対する意識を高めます。

## (3) 文化

### 現状・課題

姫島には、有形文化財や民俗文化財をはじめとして、多様な文化財が存在しています。

しかし、現状では実態が把握されていないものが多く、保護・保存策が必要な文化財の選定ができていない状況です。

また、島では年間を通してさまざまな文化行事が行われており、青壮年が中心となって全島民をあげて実施されています。

今後は、こうした文化行事を継続していくための人材を育成することが課題となっています。

### 施策の方向

文化財については、必要に応じて調査を行い、保存が必要なものは指定を行い、保護・保存策を講じます。

また、島の文化行事を継続していくため、行政区が実施する活動を積極的に支援します。

## 9 観光の開発

### 現状・課題

姫島の観光資源としては、幕末期に勤皇運動を影で支えた「野村望東尼（のむらもとに）」の御堂、胸像、歌碑、記念碑、姫島神社などのほか、玄海国定公園第二種特別地域に指定されている手つかずの豊かな自然と、山頂からの眺望などが挙げられます。

また、漁業に特化された産業構造の集落が生み出す雰囲気と、離島に培われた温かく人を迎えてくれる人情は、姫島の重要な観光資源です。

島にある2軒の民宿は、年間約700人の利用客があり、島には、年間約1,700人の釣り客が訪れています。（平成23年観光入込客調査基礎資料より）

しかし、集落内にある「野村望東尼」御堂以外の観光スポットが少なく、島を周回する道路や眺望に優れた山頂等への道路も整備されていないため、滞在時間も短く、宿泊客も少ない状況です。

離島という地域特性と漁業という産業、島に住む人の人情を活かした観光メニューの開発が課題となっています。

### 施策の方向

#### 観光情報の発信

観光客の増加につながるような、姫島の情報発信を支援します。

#### 観光スポットの活用と遊歩道の整備

観光スポットを活用し、島内の滞在時間や回遊性を高めるため、遊歩道の整備を行います。

#### 観光メニューの開発

ブルーツーリズムなどの産業を生かした観光メニューの開発を支援します。

#### 姫島への観光客誘致

「いとしま周遊バス」の運行により、姫島への観光客誘致を図ります。

## 10 国内および国外の地域との交流の促進

### (1) 島内交流

#### 現状・課題

姫島は、年間行事を島民全体で取り組んでいます。また、島民が互いに思いやり、ふれあい、支えあいながら島内交流が行われているのが現状です。

今後は、行政区が実施する活動を継続させることが課題となっています。

#### 施策の方向

活力と魅力あるまちづくりを推進するため、行政区が地域コミュニティを活性化するために行う活動を積極的に支援します。

## (2) 島外交流

### 現状・課題

姫島は本土（岐志漁港）まで市営渡船で約 16 分と比較的近い位置にあり、日常的に島外交流の機会があります。

しかし、高校生以上の学生は、島外に通う必要があり、その費用負担が大きくなることや、島に雇用の場が少なく、島出身者がUターンを希望しても、仕事がないため帰ることができない状況などがあり、若者を中心に人口の流出が進んでいます。

また、島には出会いの場が少なく、結婚をして、新たに島内で家庭を持つ人が少ない状況です。

人口の減少に歯止めをかけるためには、流出の要因となっているそれぞれの課題解決とともに、積極的に島外交流を進め、人を呼び込むことが必要です。

なお、福岡県内の 8 島間では、同じ課題を持つ島同士で情報を共有するため、離島振興推進員を中心に年 2 回の交流事業を実施し、各島の状況などについて情報交換をしています。

### 施策の方向

島に増えてきている空き家で、移住者が居住するための改修に対する補助を行うとともに、空き家情報を整備し、移住検討者にその情報を提供するなど、空き家を活用した定住化促進の仕組みを作ります。

また、島外の独身者との交流機会を設けるなど、島外交流を通して、結婚支援活動を推進します。

併せて、子育て、教育支援のために高校への通学費を補助や高速通信網の活用による在宅ワーク環境整備など、定住化を進めるにあたっての問題解消に努めます。

さらに、国内の交流にとどまらず、国際化意識の醸成と外国人との交流機会の創出のため、留学生との交流など国際交流の取組を積極的に支援します。

## 1 1 自然環境の保全および再生

### 現状・課題

ここ数年、温暖化による有害生物（ガンガゼ）が発生し磯漁場が悪化しており、特に、藻場が減少し、「磯焼け」の範囲が拡大しており、アワビ、サザエの漁獲量が減少している状況です。

また、島に生息していなかったイノシシが多く繁殖し、農作物を荒らすようになっていきます。

なお、姫島では、ペットボトルや発泡スチロールをはじめ、流木などの漂着ご

みや釣客等の散乱ごみが多く、地域ボランティアにより、定期的に清掃活動を行っています。中でも、6月と9月の清掃活動については、島民全員で取り組んでいます。

#### 施策の方向

漁場の悪化に対しては、姫島磯根協議会で年間4回程度有害生物の駆除や藻の移植などを行ない、藻場の再生事業の取り組みや種苗放流事業を支援します。

また、島内に生息するイノシシの被害対策については、有害鳥獣捕獲会によるイノシシの捕獲や侵入防止柵設置などの支援を進めます。

散乱ごみ対策としては、釣客や観光客等に対し、ごみのポイ捨て抑制や持ち帰り促進などのマナーアップ啓発を行います。

漂着ごみ対策としては、地域ボランティアへの支援をはじめ、本土側の市民との幅広い連携・協力によって清掃活動を実施するなど、市民全体が一丸となって地域の自然環境を保全していくことができるよう働きかけを行います。

### 1 2 再生可能エネルギーの利用その他のエネルギー対策

#### 現状・課題

現在、姫島には、九州電力から海底ケーブルによる送電が行われており、電気の受給については、一般の地域と同じ状況です。

ただし、離島という特殊な環境から、地震などの災害時には、海底ケーブルの寸断などによる孤立が想定されるため、災害時の非常用電源のひとつとして活用できる再生可能エネルギーの導入が求められています。

#### 施策の方向

エネルギーの自給自足、地産地消を推進していくために、再生可能エネルギーの導入を進めます。

また、島民の安全・安心を確保していくため、島内の公共施設に再生可能エネルギーを利用できる設備の設置に努めます。

### 1 3 水害、風害、地震災害、原子力災害その他の災害を防除するために必要な国土保全施設等の整備その他の防災対策

#### 現状・課題

近年、姫島では、幸いにも大きな災害は発生していませんが、台風や地震、津波などに加え、毎年のように全国各地で記録的な集中豪雨が発生しており、姫島においても、いつ大規模な災害が起こってもおかしくない状況にあります。

平成 17 年に発生した福岡県西方沖地震では、震源に近く、建物被害が集中した玄界島の全島民が避難するという事態も発生しています。

また、姫島は、玄海原子力発電所から約 20 キロメートルに位置していることから、万が一原子力災害が発生した場合には島民の迅速的確な行動が重要となります。

このような状況から、情報通信の途絶による孤立の防止策や避難対策の重要性が改めて認識されています。

今後は、大規模災害に備え、迅速な防災情報の収集・伝達体制の構築など住民と行政が一体となった孤立防止対策、食料・飲料水等物資、非常用電源等の備蓄体制強化、防災関係機関との連携による避難支援対策を進める必要があります。

なお、姫島は、成人男性の多くが漁業従事者であることから漁の期間中に発生する火災など防災対応は、婦人消防隊の活動が重要となっています。

#### 施策の方向

##### 情報収集・伝達体制の充実強化

情報伝達手段である防災行政無線が被災し、使用できない事態に備え、人工衛星を利用して通話を可能にする衛星携帯電話の整備を行います。

また、自主防災組織の情報伝達・避難集結訓練などを通して、住民による情報伝達体制の強化を図ります。

##### 災害時における備蓄体制の強化

災害に備え、避難所における非常用電源など防災資機材の配備を進めるとともに食料等物資の備蓄に努めます。

また、災害発生直後は、応急物資が行き渡らないことから、住民による 3 日分以上の食料、飲料水など備蓄の周知を図ります。

##### 婦人消防隊の育成強化

婦人消防隊の育成強化を図るため、防災資機材の整備や防災講座、訓練等の支援を継続して行います。

##### 原子力災害対策の強化

「糸島市原子力災害広域避難個別計画」に基づき、迅速で的確な行動がとれるよう計画内容の周知と防災訓練を計画的に実施するとともに原子力防災資機材の整備を行います。

## 1 4 離島の振興に寄与する人材の確保および育成

### 現状・課題

人口の減少、少子高齢化が急速に進行しており、特に若い世代で、次世代を担う人材の確保や育成が難しくなっています。

次世代を担う人材が育たなければ、島の産業・文化の継承や市民活動の維持がなされず、地域の活力そのものが低下し、さらに人口減少を生み出す要因となってしまいます。

#### 施策の方向

島内外での交流や研修などを通じ、島民の中から、次世代を担うリーダーとして、自分たちの住む島の将来を考え、地域の活性化を進める人材の確保・育成に努めます。

あわせて、若者が生まれ育った島に住み続け、家庭を築いていく「家族の継承」が行われる環境づくりを進めるとともに、新たな産業や地域の特産品づくりなど、島の活性化に寄与する島外からの人材確保を視野に、定住化を促進します。